

平成29年度事業報告

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

I 概況

企業等において人手不足が深刻さを増す中、高齢者の活躍が地域社会から求められ、シルバー人材センターの重要性を実感する年でした。当センターは、社会から支えられるだけではなく、ささえる役割を担えることを目指して、高齢者の生涯現役を推進し、健康で地域社会で活躍できる場所を提供するため、会員増強や就業機会の確保に努めました。

センター合併の大きな目的は、市町をまたいで会員が就業機会を得ることができるようにしていくことです。2年目を迎え、居住市町以外の地域で公共関係や民間事業所等への仕事に就く会員が徐々に広がりを見せております。

また、運営の基盤となりますセンター組織の見直しを進め、仕事別グループについては、グループ活動共通の運営の指針を会員の意見を大事にしながら作成しました。そして、次年度につながるように地域班組織や新たなセンターPRや会員自主活動の援助方法等について検討してきました。

II 事業の概要

1 会員数

	前年度末 会員数	当年度 入会員数	当年度 退会員数	当年度末 会員数
男	1,457	204	186	1,475
女	640	139	105	674
計	2,097	343	291	2,149

新規入会者は343人、退会者が291人で新規入会者が退会者を上回る結果となりました。退会理由では、病気や家庭の事情等が173人と最も多くなっています。

当年度末では2,149人となり前年比52人の増加となりました。

2 事業実績

	契約金額 (単位:千円)							合計
	請負				派遣			
	配分金	材料費等	事務費	請負合計	賃金	手数料等	派遣合計	
前年度	920,392	80,304	75,004	1,075,700	48,301	13,676	61,978	1,137,678
当年度	853,786	83,203	67,783	1,004,772	114,274	31,316	145,590	1,150,362
差異	-66,606	2,899	-7,221	-70,928	65,973	17,640	83,612	12,685

事業実績をみると、契約金額は、請負契約10億4百万円（前年比93.4%）、派遣契約1億4千5百万円（前年比234.9%）合計11億5千万円となり、前年比101.1%でした。

前年度と比較すると請負契約が大幅な減額となり、派遣契約が2倍以上となりました。契約金額のうち12.6%が派遣契約となっています。

この1年間で会員の得た収入は、配分金と賃金総額で9億6千8百万円となりました。

Ⅲ 事業実施報告

1 事故0を目指して、安全就業対策を進めます

賠償事故のうち、安全就業についての義務を怠ったとして草刈り作業において警告書が1件発せられました。飛散防止の措置をしていなかったため、家屋の窓ガラスを割ってしまったためです。そのため、安全委員会は草刈り作業や植木手入れ等作業現場の安全巡回を強化しました。

事故発生件数は減らず、傷害事故のうち、転倒によるものは全体の57%で半数以上を占めています。前年度に引き続き多いことから転倒防止講習会を2会場で開催しました。

仕事別グループに安全担当を置くことについて検討し、次年度から仕事別グループに安全担当を置き、担当者会議を開催する予定です。

機械器具の取扱い講習会等実施に向け準備しました。今後継続的な開催が必要です。

2 シルバー人材センターらしい仕事を目指して適正就業を推進します

すべての請負契約について適正であるか否か、総点検を実施しました。請負にはなじまないと判断される契約は、発注者と協議の上派遣契約に切り替えをお願いしてきました。中には、契約を解除せざるを得ないものもありました。

仕事別グループ活動の基本的な考え方を指針にまとめました。今後各グループが指針に則った運営を進めることとなります。また、新たなグループの設置をさらに進めなければなりません。

就業交替制度については、2年間の周知期間としてきました。平成30年3月末には、公共関係の仕事うち、交替の対象となっていなかったすべての業務を対象し、継続して10年以上就業の会員は交代となりました。

就業中のクレーム対応について、施設管理業務や個人家庭での仕事に従事する会員を対象に5日間全10回の接遇講習会を開催しました。

3 あらゆる機会を通じて就業機会を確保します

請負にはなじまないと判断される業務については、発注者のご理解を得て派遣契約としました。また、積極的に新たな契約を獲得し、食品宅配業、コンビニエンスストアや保育所保育補助、介護老人施設の補助業務など多岐にわたり新規契約となりました。

しかし、仕事を受注しても、就業できる会員がいないことから契約に至らないケースも多くあり、会員の就業希望とのミスマッチがみられました。

また、ふじみ野市と協定を結んでいる空き家の管理業務について、富士見市と三芳町に働きかけました。併せて、選挙関係の事務や確定申告時の受付業務などについてお願いし、引き続き調整を進める予定です。

家事援助事業については、積極的に展開するまでは至りませんでした。

4 強固な組織づくりを進めます

地域班は、積極的に班会議や懇親会を開催し出席率の高い班や、班独自のボランティア活動を行っている班もあります。しかし、会議を開催しても、集まりが悪い。班長のなり手がいなくて困っている。というようにアンバランスな状態です。これらの状況を鑑みながら班組織について検討を重ねてきました。

仕事別グループは活動内容に違う点があり、今後指針を基に統一した活動が求められます。

事務局組織については、一定規模の人数となっており機能的な組織体制とするため、課制について検討し新年度より実施することとしました。

5 会員の融和を進めます

グラウンドゴルフ、横須賀方面への日帰り親睦旅行、恒例となりました会員作品展を実施し、多くの方に参加いただきました。また、各地域での清掃ボランティア活動を実施しました。フェスティバルについて、平成 29 年度は休止とし、リニューアルし平成 30 年度に開催するため実施内容等について検討しました。

サークル活動については、センターとしてどのような支援ができるか、代表者会議等を通じ意見を聴取し検討しました。

6 積極的な PR 活動を推進します

新規会員募集やセンター活動周知のため、チラシの全戸配布 5 回、新聞折り込みを 2 回実施しました。また、新たな取組として駅前にてうちの配布を役員及び委員会委員により 2 駅で 1 回、4 駅で 1 回実施しました。さらに市民に直接話しかけながら周知するために各市町産業まつり参加しました。

会員向けには、センター活動の紹介、理事会や委員会活動周知のため「シルバー人間東部」を 3 回発行しました。

また、コミュニティバス時刻表、市民便利帳や郵便局封筒への公告掲載、市役所掲示地図への掲示等あらゆる機会をとらえて PR に努めました。